

1979
3月

第6号 「シニア雑記帳」 BOY SCOUT OF
38 Senior KYOTO

「今年度のシニアの活動もあと6ヶ月を残すのみとなつた。テストハイク・GS交歓会・入試激励会・雪中ハイクとすぎ、あと、オーバーナイトハイク・20周年記念行事参加・夏季遠征と3つのプロモを6ヶ月の中に取りくむこととなる。Hikig.campと、野外活動が多いのは春になつたためであろうか? ……。

ところで、春といえば、1年目の入試が終り、それに熊野の森にこもっていた副長が修行からもどったため、玄琢の3LDKを定員オーバーになりそうだ!! 全員そろった所で、

夏へ向って Let's GO!

— 今月のひとこと — 野良ネコの副大将 —

・2月のたより …… 雪中ハイク。

2/3～4. 北山荘にて雪中ハイク(キャンプかな?)を行ひました。担当は我らの五十嵐氏、出合橋一直谷一北山荘(1泊)→竜谷一貴柄口一帰宅であった。当夜は、川に寝た丸太が凍りついてチョット水あそびをする人も中にはいた。夕(夜)食は焼肉、そのピリッとした味に清涼飲料水がうまかたれ。雪がなむたのは少し気になる所だ。

シニア諸君へ。

夏季遠征について考える時がやがてきた。

今、あなたな HOW TO CAMP が提案されています。

一単独行動一。これがそのためです。失敗に対する不安があると思いますが、やはり全員がやるべきです。SSにはBSの1級以上の技術があるだろうからシニア達以上の章を与えられていると思うからです。たしかに1年目と3年目、CAMPの量によく比例があると思います。しかし、自分の出される範囲内で十分な計画をたてれば失敗はないでしょう。とにかく1人で旅することに向かを見出しが、今のシニアに必要なではないでしょうか? シニアの武道修業には、隊員とか班長とか、4人などで多すぎる。1人が一番いいのです。たしかに想いがけず淋しいでは、けれど、その絶対的な孤独にたえてこそ真の體た! と言えると思います。育成会の人たる「アドバイス」と言われるかもしれません。4年から10年のスクウト生活のかたとして思って取り組まべきです。それに班長で計画になると班長を中心として3、4人の者がやるのではないか? それで計画書は3日が書けてしまう。1年目はついでいくだけにちがひが目に見えています。プロセスの書き方のむずかしさ、隊長といわれたまゝが、これは計画書を書いて書くよりもむずかしい絶対にわかりません。朝、TELで隊長から呼び出され、さもなく文句を言われて計画書を書き直すことをくりかえして始めて遠征に行くのです。引きがわかるんじゃないでしょうか? 楽をして行かねば、家族旅行でも友人の気持な旅にして行けばいいのです。シニアとして行くには、そして観光やあそびでもないですね。自分の見聞を広め、自分を高めていく旅なのではないでしょうか。だからこそ、文句を言われても納得いく計画書を書き、遠征を成功させりや。くる そんな所にシニアの遠征のよがりしがあるのではないか? みんなが、みんな遠征をしたいし、行であるべきだと思います。だからこそ、個人で計画し、実行すべきではないのか? 目的を持ち、SSのCAMP方法で個人行動することを今年の遠征にするべきだと思います。